



何よりも市民が『幸せ』を実感してもらえる
まちを目指して

松原市議会議長 森田 夏江

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はリオで開催されたオリンピック・パラリンピックで多くの日本選手が活躍し、数多いメダルを獲得しました。諦めずに夢に向かって頑張りぬくことの素晴らしさを実感し、夢と希望と感動を私たち日本国民に与えてくれました。

しかし、嬉しいニュースとは裏腹に熊本の大地震をはじめ鳥取、3・11を髣髴させた東北地方での津波避難勧告が出された地震が発生し、私たちの住む近畿でも南海・東南海地震を予測させるような地震も起こりました。また、北海道や東北地方での甚大な被害をもたらした台風など自然災害の脅威を認識せざるを得ない災害も多々発生しました。これらの経験を真摯に受け止め2次被害や人災を食い止め、減災対策等、公助の果たすべき役割の重みをしっかりと受け止め、市民の皆様とより一層手を携えていかねばとさらに決意を固めています。

世界情勢では、アメリカでは大方の予想を裏切ってトランプ氏が大統領に選任され、韓国では、朴大統領が国民から大きな非難をあげ国政に混乱を招くなど、まさに激動の時代と言えるのではないのでしょうか。

日本では高齢者の暮らしが大きく左右される年金制度や介護保険制度の改定、日本の農業や経済に大きな影響を及ぼすTPPの導入などが推し進められようとしています。少子高齢化や先の見えない経済状態の中、市民の皆様お一人おひとりが「住んでいて幸せ」を実感してもらえるようなまちにいくために、従来の枠組みにとらわれない新しい取り組みと住民の命や暮らしを最優先に考える施策は今まで以上に重要になってきます。

子どもたちの笑顔があふれ、高齢者の皆様には「長生きをしてよかった」若い皆様には「このまちで結婚して子どもを産みたい」、何よりも「このまちがふるさと」と胸をはって誇りをもって言ってもらえる松原市を構築するため、私たち議会議員一同、全力で取り組んでまいります。昨年に勝りますご指導・お力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

今年も四年です。市民の皆様にとって大きく羽を広げ、希望ある未来へはばたく素晴らしい年になりますよう心から祈念いたしまして年始のご挨拶とさせていただきます。



これからも、住んでみたい、住んでよかった、
住み続けたいと思えるまち松原市に

松原市長 澤井 宏文

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

市長就任以来7年7カ月、私は市民の皆様との協働のまちづくりに取り組み、「安心・安全なまち日本一に！！」「長生き日本一に！！」「便利・清潔なまち日本一に！！」という3つの柱の実現を掲げ、その達成に向け取り組んでまいりました。

そのような中で、1月15日オープンまつばらテラス(輝)では、子どもから元希者の方までいつも笑顔で和やかに明るく生活が送れるよう、介護予防、健康づくりや子育て支援事業の充実を図るとともに、元希者の方々や子育て世代を初めとした様々な世代の皆様が楽しく集うことができる、賑わいのある施設となるよう魅力ある事業展開を考えております。

また、平成30年には天美B地区のまちづくりにおきましてアリオのオープンが予定されており、隣接する弁天池にホテル誘致を進めていくとともに、新堂4丁目のまちづくりにも取り組んでまいります。そして、都市計画道路堺松原線や新堂南線の整備により、防災及び交通環境が大幅に改善されましたが、今後開通予定の阪神高速大和川線により、60分以内で京都や奈良、さらには神戸など近畿の主要拠点へアクセスできる地の利を活かし、交通の要所として大きな役割を果たすことや先進した制度において企業誘致を進め、安定した雇用を生み出し、人が集まるまちへと進化していくために、徹底した成果の検証を行うだけでなく、公有財産の有効活用を初めとする自主財源の確保、民間活力のさらなる推進などに取り組んでまいります。

今後も市の抱える課題に選択と集中を心がけ、行財政改革の断行と何より大阪初のセーフコミュニティ国際認証都市として市民の皆様との協働の取り組みを推進し、スピードと行動力をもって市民目線に立ったまちづくりを引き続き進め、自信を持って次代を担う子どもたちに松原市を引き継ぐため、これからもあらゆる事にチャレンジしてまいります。

どうか、皆様には、今後ともまちづくりに対してご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

